

チャレンジ！！オープンガバナンス 2024 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題名(注1)	No.	自治体提示の地域課題名	自治体名
		地域コミュニティの再生	裾野市
チームがつけたアイデア名(公開)(注2)	食事提供イベントを通じて裾野市を盛り上げよう		

(注1) 地域課題名は、COG2024 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。これは自治体提示の地域課題名とは別です。

1. 応募者情報 下の欄のうち選択肢項目は右のドロップダウンで選んでください

チーム名(公開)	わらしべ長者		
チーム属性(公開)	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生 ドロップダウン選択一		2. 学生
チームメンバー数(公開)	4 名		
代表者(公開)	岩崎優奈		
メンバー(公開)	穴田結夢、秋元青哉、青木美沙樹		

【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。

＜応募の際のファイル名と送付先＞

1. 応募の際は、ファイル名を COG2024_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、COG2024 のウェブサイトにある【応募フォーム】からアップロードしてください。

＜応募内容の公開＞

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者および公開に同意したメンバー氏名([メンバー一覧ページ](#)を参照)、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について:
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY(表示)4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC(表示—非営利)4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
(具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja> および <https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開しません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

＜知的所有権等の取扱い＞

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

アイデアの説明が肖像権・著作権等を侵害していないことを確認してください。OKなら右欄の○を選択 ➡ OK

＜チームメンバー名簿:[メンバー一覧ページ](#)＞

チームメンバーに関する情報を該当ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

アイデアの説明は(1)アイデアの内容(活動)、(2)アイデアの理由(なぜなら)、(3)実現までの流れ、の三項目あります。それぞれ書いてください。必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

(1) アイデアの内容(公開)

アイデアは、対象とする課題解決のために、どのような社会的活動(サービス)を行うのかを具体的に示してください。

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容（公開）

将来実現した場合に、新規性があり、実践したくなり、魅力的でワクワクするようなアイデアを求めます。その結果、課題が解決され、社会に良い変化をもたらすことが期待されます。2 ページ以内でご記入ください。

※応募チームとして解決したい課題のポイントを、以下にごく短く書いてください

＜解決したい課題のポイント＞

- ・アンケートを取った結果→食事施設を希望している人が多かった。
- ・裾野市以外からも注目されるようなイベントを開催する。

※以上の課題解決のために『何』をするアイデアか、それを『だれ』が『だれ』に対して『いつ』『どこで』『どのように』行うのか、受益者自身が主体的に関わる視点も視野に入れてわかりやすく書いてください。アイデアが具体的に実行される場面を想定し、説明をお願いします。

（参考）よいアイデアを生むには関連データの分析に加えてデザイン思考によるアイデアを利用する人への共感（使う人の立場になってみる）が大切です。

＜提案するアイデアの内容＞

裾野市には食事提供施設が少ない

裾野市民を対象としたアンケートを取ったことで分かった。

そこで食事提供を行えるイベントを開催!!

裾野市で開催することによって、裾野市内に住んでいる人も積極的にイベントに行ける。また、参加をすることもできる。

駅から近いところでイベントを開催することによって、裾野市外から来た人でも気軽に立ち寄ることができる。露店にすれば市民でお店をやりたい人でも参加をすることができる。

その活動によって

地域との関わりが深くなる。

そうすることで裾野市を盛り上げることができる。

イベントの具体的な内容について

提供をするのはなにか

立ちながらでも食べやすい食事を提供する。

食事を通してイベントを楽しんでもらいたい。

どこでやるか

→駅から近い場所で行う。

誰を対象とするか

→基本的には裾野市民を対象にする。

イベントを開催することによって、どんな効果があるか。

- ・食事施設を増やしてほしいという希望が一時的にだが、解決することができる。
- ・地域のイベントに参加することで地域との関わりが深くなる。
- ・そのイベントを SNS に上げれば、色んな人に知ってもらう可能性が大きい。

--

2. アイデアの説明（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

(2) アイデアの理由（公開）

次にアイデアを提案する理由（なぜ）について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

※このアイデアを提案する理由（なぜ）を書いていきます。

※先に書いた『何を』『だれが』『だれに対して』『いつ』『どこで』『どのように』というアイデアの内容を支えるために、『なぜ』このアイデアが有効で、実現する意味があるのか』を、上記のデータを使ってわかりやすく説明します。

＜参考：以下のように理由を書いていきます＞

※根拠：このアイデアがなぜ必要であるか、またはなぜ有効だと考えるのか、その筋道を説明します。

※裏付け：その根拠を支えるために、統計データや報告書、事例などを使って補強します。さらに具体的なアイデアの効果についても、何らかのデータを使うと説得力が増すでしょう。（定性データを含めて歓迎）

なぜこのアイデアが有効なのか。

・裾野市でイベントをすることによって、イベントに参加しようという人が増えるから。また、食事がメインのイベントなので若い人も来る可能性が高いといえることが言えます。

・駅から近いところで開催をするので、イベントに気軽に行けるというところもあります。

・イベントを通して、地域との関わりを深くすることができます。

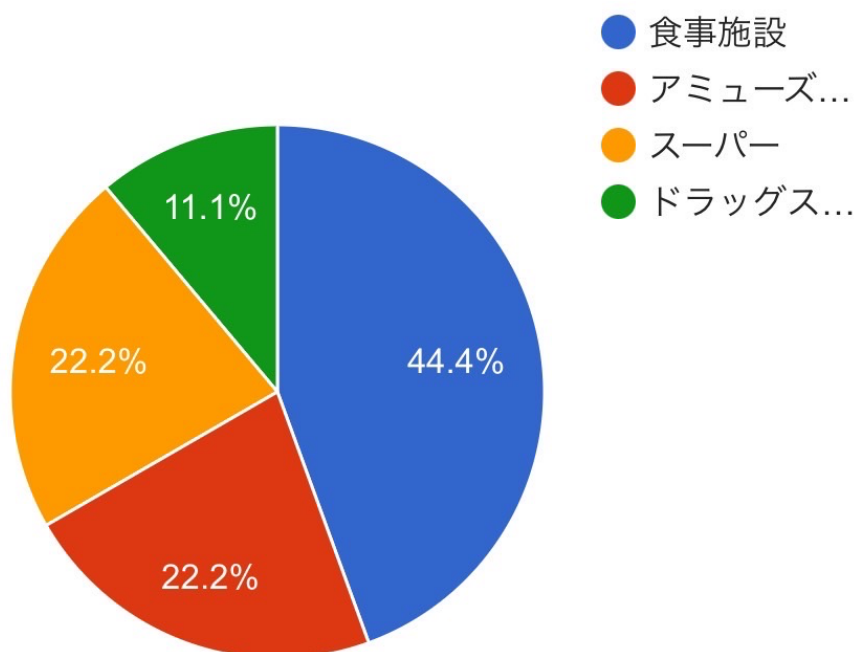
実現する意味

裾野市で食事がメインのイベントをしているのが年間を通して少ないと感じたから。

また、裾野市民にアンケートを取ったところ

「裾野市にあったらいいと思う施設はなんですか」という質問に対して、食事施設と回答している人が44%と多かったから。そのため実現することによって、希望に沿うことができるから。

裾野市にどんなお店、施設があるといいか？



(3) アイデア実現までの流れ(公開)

アイデアを**実現する主体**、アイデアの**実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの**実現にいたる時間軸を含むプロセス**、実現の制度的制約がある場合にはその解決策を含め、アイデア実現までの大まかな流れについて、**2ページ以内**でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

※アイデアに即した実現に向けての具体的な活動を上記のポイントに即して工夫して書いていきます

＜以下のように分けて書いていきます＞

1. **実現する主体**
2. **実現に必要な資源(ヒト、モノ、カネ)**の大まかな規模とその現実的な調達方法
3. **実現にいたる時間軸を含むプロセス**

1 実現する主体

実現する主体は、裾野市で営業をしている食事処を想定している。

支援団体は、裾野市役所を想定している。

2 実現に必要な資源

裾野市役所のイベント開催に関係している職員

イベントに必要な道具などは、裾野市役所から借用することを想定している。

イベントに必要な費用は 50 万。調達方法はクラウドファンディング。

3 実現に至る時間軸を含むプロセス

・これまでの時間軸

5月 前の課題設定

6月 課題の設定の最終確認

7月 その課題についてのアンケート

9月 アンケートの分析

10月 課題変更

11月 次に設定した課題の最終確認とまとめ

これからの時間軸

2024 年 イベント開催についてのアンケート、最終確認

2025 年 イベント開催の準備

2026 年 イベント開催、開催してみてもの効果確認

2027 年 イベント開催に効果があれば定期的に開催